特集 2006-2007年度　ブックスタート赤ちゃん絵本20冊　決定！

■■■　絵本選考会議報告　■■■

2005年6月に2日間にわたって絵本選考会議が開催され、赤ちゃんと絵本に関する知識と経験が豊富な5人の選考委員によって「2006-2007年度のブックスタート赤ちゃん絵本20冊（下表参照）」が決定しました。

現在NPOブックスタートでは、日本で出版されている赤ちゃん絵本をオフィス内の「赤ちゃん絵本ライブラリー」に収集しており、このライブラリーの絵本の他にも各選考委員から推薦された絵本をあわせ、約2,100冊の中から20冊が決まりました。

会議の中では、図書館や保育園といった赤ちゃんや絵本に関わる現場、また赤ちゃんの発達学的な見地、さらにお母さんやお父さんといった保護者の立場など、様々な視点からの意見が出されました。そして、時にはその場で実際に声に出して読んでみながら、一冊一冊に討議を重ねました。

その結果、ブックスタートの選考基準のもと、3-4ヶ月児の赤ちゃんが楽しめる絵本や少し大きくなってからでも楽しめる絵本、色や絵がきれいな絵本やことばの響きが心地よい絵本、ロングセラーの絵本や新しく出版された絵本など、たくさんの視点をもった絵本が選ばれました。

←絵本選考会議の様子（NPOブックスタートの会議室）

■■■　選考委員　■■■

〈写真左から時計回りに〉
代田知子さん（埼玉県 三芳町立中央図書館　司書）
近藤初江さん（社会福祉法人 豊川保育園　保育士）
細谷亮太さん（聖路加国際病院 小児科部長）
佐々木宏子さん（鳴門教育大学　教授）
金柿秀幸さん（絵本紹介サイト「絵本ナビ」事務局長）

■■■　選考基準　■■■

- 赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わしながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本。
- 上記に関し、年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。
- 上記に関し、今後、赤ちゃんからその支持を受ける可能性が高い絵本。

■■■　2006-2007年度ブックスタート赤ちゃん絵本20冊　■■■

★あそび（文化出版局）　★たべもの（ひかりのくに）　★こんにちは どうぶつたち（福音館書店）
★ぶーぶー じどうしゃ（福音館書店）★じゃあじゃあ びりびり（偕成社）　★だからこぶたちゃん（偕成社）
★いないいないばあ（童心社）　★おつきさまこんばんは（福音館書店）★がたん ごとん がたん ごとん（福音館書店）
★くだもの（福音館書店）　★ぞうくんのさんぽ（福音館書店）　★どうぶつのおかあさん（福音館書店）
★ぴょーん（ポプラ社）　★しろくまちゃんのほっとけーき（こぐま社）　★とっとこ とっとこ（童心社）　★なーんだなんだ（童心社）
★コップちゃん（ブロンズ新社）　★はらぺこあおむし（偕成社）　★くまさんくまさん なにみてるの？（偕成社）　★もこ もこもこ（文研出版）

■■■　選考委員より ～ 選考会議に参加して ～（50音順）　■■■

金柿秀幸（「絵本ナビ」事務局長）

絵本選考会議では、それぞれ絵本に関わる立場の異なる委員が、各々の視点と専門性に基づいて議論し、ブックスタートの理念と趣旨に合う絵本の選定を行いました。私は、次の３つの視点を持って絵本の選定に参加しました。

1．絵本ナビの代表として読者の視点
2．子育て中の親の視点
3．おはなし会主催者としての視点

各作品の議論の際に、参考情報として絵本ナビに投稿された読者の評価や感想を紹介するなど、新たな試みも取り入れました。委員の皆さんは子どもと絵本に対する深い愛情をお持ちで、実際に赤ちゃんや保護者の方に絵本を手渡す皆さんの期待に応えられる選書が出来たのでは、と感じています。

近藤初江（社会福祉法人 豊川保育園　保育士）

今回は、5名の選考委員により、2日間かけて行われました。私は保育士の立場から、赤ちゃんのファーストブックとして、理解しやすいストーリーと、親しみのある丁寧に描かれている絵本をポイントに絵本を選考していきました。

今まで長年親しまれてきた絵本を残したい気持ちと、新しい絵本を加えていきたいと思う中で迷いはありましたが、選考委員の方々と話しを進めていく中で、納得のいく一冊、一冊が選ばれたと思います。

絵本を読むことで、お母さん、お父さんと赤ちゃんにとって、心地良い時間が共有できることを願っています。絵本を愛する選考委員の方々との熱のこもった話し合いは、とても充実したものとなりました。

佐々木宏子（鳴門教育大学　教授）

赤ちゃんといっても4ヶ月と10ヶ月ではまるで成長の様子が異なります。10ヶ月くらいになると、いわゆる「絵本を見る」という認識の姿勢が現れてきますが、それまではどちらかと言えば絵本を仲立ちにして言葉を掛け合い、表情をやりとりし、親子一緒になって動作や動きを楽しむような絵本がとても好まれます。私は、このようなタイプの絵本を「つなぐものとしての絵本」と命名し、10ヶ月以降くらいから現れる認知型絵本とは区別してきました。それゆえ、ブックスタートの選書には、日本語の音韻やリズム・メロディが豊かに存在する絵本を出来るだけ選びました。読み手の方も「歌い読み」、「遊び読み」など、是非赤ちゃんと遊んでください。

代田知子（埼玉県 三芳町立中央図書館　司書）

赤ちゃんは、絵本の絵を驚くほどじっと見る。こんなに見てくれるのだから、「すてきな絵」を見せてあげたい。生き生きとした絵、わくわくする絵、大人もうならせる写実的な絵‥。できれば目に付き刺さる色ではなく、心地よい色がいい。また赤ちゃんは、楽しいことばを読んでもらうと、必ず読み手の顔を見る。にこにこ笑って見てくれる。だからこそ、すてきなことばをたっぷりあげたい。こんな絵本に出会ったら、きっとお母さんも絵本が好きになる…。そんな思いで会議に参加しました。自分とは違う分野で、専門的に絵本と子どもを見つめている先生方との密度の濃い話し合い、とても充実していました。一冊一冊に、私たちの思いが込められています。

細谷亮太（聖路加国際病院　小児科部長）

はじめて、この絵本選考に関わらせていただきました。とても楽しくて幸福な作業でした。

私が推せんしたのは、手にとってながめて読んであげて読み手が、赤ちゃんのように喜べる絵本です。

読み手であるお母さん、お父さんが「ね、おもしろいでしょ。いいでしょ」「な、おもしろいだろ。いいだろう」と赤ちゃんに言えるようなものを選んでみました。

私以外の委員の方々は、みな絵本の読みきかせのプロでしたので、会のところどころで読みきかせ風の朗読が入りました。なんともぜいたくな時間でした。

地域で手渡す絵本を決定する際に・・・

地域でどの絵本を赤ちゃんに手渡していくのかを決める際には、担当者個人の判断ではなく、絵本の選考過程や選考理由について明らかにしておくことが大切です。図書館や、図書館とボランティアが中心となって絵本を決める地域もあれば、ワーキンググループで地域の「選考会議」を持つこともあります。図書館がない地域では、赤ちゃんと絵本を読むことの多い保育士や経験豊富な読みきかせボランティアを中心に絵本を決める場合もあります。赤ちゃんに手渡すきっかけの一冊を、是非各地域でもみなさんで選んでみてください。

特別支援価格での絵本の提供

選考会議で選出された絵本は、出版社に利益が発生しない「特別支援価格」で出版社から直接NPOブックスタートに提供され、他のアイテムとともにブックスタート・パックとして直接自治体によって購入されています。これは、2000年の「子ども読書年」をきっかけとした日本でのブックスタートの立ち上げ以来、出版業界がブックスタート・パック提供のしくみからは直接的な利益を得ないという基本合意に基づいて運動を支援しているからです。

（NPOブックスタートを通さないパックの流通では、この特別支援価格による絵本提供のしくみは適用されませんのでご了承ください）